

実践活動報告「小さな市民団体が多文化共生のまちづくりの第一歩を」

いわくらにほんごクラス 副代表 西村 恵美子
(愛知県岩倉市)

1 研修で設定した課題とその背景

【最終的に設定した課題】

団体（教室）の理念と目指す方向性を明確にし、具体的な活動に落とし込む。

【背景】

「いわくらにほんごクラス」は、2021年度愛知県初期日本語教育向け指導者養成講座修了者が集まり作った市民団体であり、2022年度から活動を開始した。日本語教室運営のノウハウもほとんどないメンバーが集まり、代表と副代表の計3名が教室コーディネーターの役割を担い、これまで愛知県のマニュアルに沿って「対話型日本語教室」の活動を進めてきた。今年度、地域日本語教育コーディネーター研修を受講し、目指す多文化共生社会の姿を改めて考える中で、これまで教室の活動内容や方法を考えることが先行し、団体の理念や目指す方向性を明確にしていなかったことに気がついた。そこで、まずは市民団体のメンバーで話し合いの機会を持ち、今後目指す方向性や、そのために私たちができることを具体化し、来年度以降の活動につなげていきたいと考えた。

2 行ったこと・考えたこと

【秋期研修までに行ったこと】

「運営の改善」「学習者の定着」「市内の認知度・ネットワーク」「活動内容の検討」など、様々な問題があったが、どこから手をつければよいのか悩みつつ、関係者と話し合っていることから始める。

●広報…市との協働事業であることを強調し、市のキャラクターを載せたチラシを作成。市役所の住民課に置いてもらうなどした。

→ 以前チラシ配布を断られた保育園から「チラシがほしい」と連絡が来た。

●岩倉市のまちづくり会議に参加…「いわくらにほんごクラス」の活動を紹介。

→ 存在は知ってもらえたが、関心を持ってくれた人は少数。

団地の住民からは、「子ども同士は国籍に関わらず仲が良いが、大人になると日本人も外国人も互いに関わらなくなってしまう」との声。

●教室活動の一環で、地域のお祭りに参加…地域の人々の学習者への対応を目の当たりにする。

→ 関わりを避ける人、「外国人はことばが通じなくて困る」と漏らす人

●学習者アンケート実施…教室の満足度や興味のあるテーマを調査

→ 教室が1つの居場所として機能していること、参加した学習者は「前より日本人と話したいと思うようになった」と感じていることがわかった。

【感じたこと・考えたこと】

・実際に様々な場に出向き、地域の人と話すことによって、それぞれの人の多文化共生への関心や問題意識の度合いなどを感じることができた。もっと地域住民を巻き込んだ活動をしてみたい。

・学習者は教室に参加することで、教室外でも日本人とのコミュニケーションに意欲的になる

可能性がある。興味のあるテーマを取り入れ、内容を工夫しながら続けていきたい。また、そこに地域住民も参加できるような場を作りたい。

【秋期研修以降に行ったこと】

<11月>秋期研修

改めて「目指す社会」について考え、最終的な課題を設定する。

<12月>団体ミーティング実施

目指す多文化共生社会の形と、そのために私たちができることについて話し合う。

●どんな社会になるといいと思うか

- ・「国籍に関わらず、1人1人違うのは当たり前で、違う考え方の人たちが歩み寄れるような社会」「外国人住民がお客様ではない社会」
- ・今はお互いに知らなさすぎるので、トラブルや偏見が生まれやすい。まずはお互いを知ることが大切。

●私たちができること

- ・多様な人が参加できる場を作る。
⇒楽しいイベントの企画（料理系・スポーツ系・語学教室など）・多様なテーマ設定
- ・参加すればプラスになると思える場を作る。
⇒子育てパパママ同士で対話教室・団地に出張して住民同士の対話教室など

<1月> 岩倉市のまちづくり会議「未来寄合」に参加

「まちづくり」の視点から、地域住民同士で意見交換。他の市民団体とのコラボ企画案や、団地での教室実施案などが話題に出る。

【感じたこと・考えたこと】

- ・団体メンバー（日本語サポーター）も、多様な背景を持つ市民であり、それぞれの立場や知っている情報を生かして活動を広げることができる。
- ・課題「多文化共生」にいきなり正面から向き合うのではなく、気楽に参加できることから始め、多文化共生に関心を持つ関係者を増やしていきたい。

【今後の予定】

- ・団体（教室）としての理念を言語化し、全員で共有する。
- ・企画案を具体化し、実施する。

3 地域日本語教育コーディネーターとして大切にしたい視点

- ・体幹と柔軟性… 自分の軸を持ちつつ、周囲の声にも耳を傾ける柔軟な姿勢。
- ・まちづくりの視点… 地域の強み・弱みを把握し、活用するという視点。
- ・対話と言語化… 一人ではなく、みんなで思いを伝え合い、一緒に考えること。

4 実践において、難しいと感じたこと

自分の考えを整理し言語化することが難しかった。が、言語化することによって相手に伝わり変化が生まれることも実感した。時間がかかっても、今後も続けていきたい。

以上